

# 第2回検討会の議論テーマについて



2025年9月

# 本検討会における検討事項

フェーズ	都市企業等が参入する上で必要な要素
企画段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参入の目的(短期～長期視点) (既存事業への貢献、収益基盤強化、新規事業、ESG推進、地域経済活性化)</li> <li>・具体的な課題解決方法、支援方法の検討</li> <li>・関係者とマッチング</li> </ul>
実施段階	<p>1. 生産現場による受入れに直接的に係るもの 受入側メリットの把握、農作業の工程分離、現場と企業の橋渡し(中間支援組織、自治体)必要な道具整備(自治体、生産者)等</p> <p>2. それ以外 全体コーディネート機能(中間支援組織)、マッチングプラットフォームの提供(中間支援組織)、コミュニケーションの場づくり(自治体、中間支援組織)</p>

(事務局)

中間とりまとめ  
普遍化に向けた論点の整理

## インパクトの可視化と測定

ロジックモデルによる可視化



測定方法の検討

証明書制度との接続

資金拠出・人材派遣企業等のうち、  
インパクト創出に大きく貢献しうる  
取組を行った者に対して国が評価・表彰

総論、とりまとめ  
手引き作成開始

※第4回以降については、証明書検討会の進捗状況を鑑みて、検討内容を調整することとする。

### 【第1回】

- ・農山漁村のコミュニティ維持、関係人口創出に参入する理由と課題(企業が享受するメリット)
- ・社内合意形成の推進と承認プロセス

### 【第2回】

- ・地域との連携について(受入地域が享受するメリット、円滑な企業参入に向けて、受入側・企業側が対応すべきこと)

### 【第3回】

- ・継続的な取組としていくための仕組みづくり(ビジネスモデルの確立に向けたポイント、中間支援組織や自治体との連携を続ける上での留意点)
- ・初訪後、再訪を促し関係人口化していくための課題、必要な施策

### 【第4回】

- ・国による、企業に対するインセンティブの設計(どのような要素が企業にとってインセンティブになり得るか、国が優良事例実績を認定・証明する制度の設計に関する議論)

### 【第5回】

- ・総論、とりまとめ
- 全4回の検討内容を踏まえ、総論をとりまとめる。また、成果物の作成に向け、方向性について委員・事務局間で擦り合わせを行う。

## 本日の議論テーマ

テーマ①:大企業の農山漁村参入による、受入側(地域・生産現場)が享受するメリットは何か

→ 議論のゴール: 受入側(地域・生産現場)のメリット明確化

(議論のポイント)

- ・ 企業:成功事例から分かった受入側(地域・生産現場)のメリット、  
失敗事例から想像される創出すべきメリットとその方法、課題
- ・ 中間支援組織/自治体:具体的な事例に基づくメリットと課題、意識すべき点など

(地域側のメリットのイメージ・一例)

	短期	中長期
地域事業者メリット	<ul style="list-style-type: none"><li>● 繁忙期における人手不足の解消</li><li>● 社員との交流による学びやモチベーションの向上</li><li>● 購買、サービス利用による売上</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 繁忙期における生産体制の安定化</li><li>● 連携継続におけるブランディング</li><li>● 取引先としてのビジネス機会創出</li><li>● 経営やマーケティング等の伴走支援</li></ul>
自治体メリット	<ul style="list-style-type: none"><li>● 連携実績によるPR効果(地域内:郷土意識向上、地域外:ブランディング)</li><li>● 地域のファン(関係人口)の獲得</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 包括連携協定等他領域における連携強化</li><li>● 移住定住者候補の獲得</li></ul>
住民メリット	<ul style="list-style-type: none"><li>● 社員との交流による地域魅力の再発見</li><li>● 住民と社員個人同士のつながり作り</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 繋がり継続による充足感</li><li>● 地域課題解決の相談</li></ul>

## テーマ②の議論イメージ

テーマ②:円滑な参入に向けて受入地域が対応すべきこと、企業が対応すべきことは何か

→ 議論のゴール : 受入地域と企業の対応すべき事項/方法/必要な工夫の明確化

以下プレイヤー毎の議論ポイントを、次頁記載の事業検討プロセスと照らし合わせながら確認したい



### 【生産者側】

- 初心者の受け入れに対する環境整備と、技術面・心理面でのサポート



### 【自治体側】

- 受入に関する生産者/企業双方へのサポート



### 【中間支援組織側】

- 受入に関する生産者/企業双方へのサポート
- 地域との最初の接点づくり



### 【企業側】

- 農山漁村におけるソリューションの提供

## 想定される役割・留意点の例

企業参入に当たって各ステークホルダーに求められる役割・留意点として、以下のようなものが考えられる。

### 生産者

- ・農作業の工程の分離
- ・企業との積極的なコミュニケーションによる友好関係の構築

### 企業

- ・自社のソリューションに係る分かりやすい説明
- ・生産者の生産物＝資産を扱うという意識
- ・農作業における「素人」であるとの自覚

### 自治体・中間支援組織

- ・生産者と企業との最初の接点づくり
- ・生産者と企業との認識の擦り合わせ
- ・生産者と企業の双方が持つ懸念点の解消に向けた、情報発信やコミュニケーションの場の提供
- ・必要な道具の整備、着替え等を行う拠点や宿泊環境の案内
- ・生産者・企業の取組における補助業務

## 具体的な論点

- 各プロセス(下図)において、各ステークホルダーがどのように関わるか。
- 自治体と中間支援組織の役割分担はどのようにすべきか。
- 地域と企業とのマッチング率を高めるための方策や、中間支援組織に求める役割とは何か。
- 企業と中間支援組織はどのように連携していくか。
- 農山漁村において企業が持つべき意識は何か。

